

都市近郊におけるマーケットインな農産物生産の実践

【工夫のポイント】

- 耕作放棄されていた谷戸田を造成し、効率的な作業が可能な畑として整備することで、露地野菜の生産が拡大。
- **大都市近郊の立地を最大限に活用**することで、**外食産業との契約栽培や消費ニーズに即したマーケットインの農業生産を実践**。
- 若手農業者や女性農業者がそれぞれの視点を活かした経営を展開し、地域農業の発展に寄与している。

基盤

営農条件の良好な農地の造成と新規作物の導入

- 谷戸を埋め畑地を造成(平成2年～平成20年)
- 農業機械の導入など営農条件の改善及び耕作可能な農地の拡大による高収益作物への転換に加え、近年では、農産物の更なる高品質化に向け、畑地かんがい施設の整備や農道整備を実施中。
- **大都市近郊の立地を活かした農業**が展開されている。



基盤整備

(H27年～H33年)
(H2年～H20年)

【整備前】

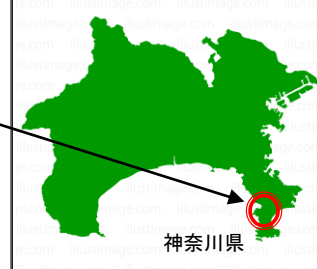
三浦半島特有の丘陵地の中の入り組んだ谷(谷戸)は、周囲の水が集まるため水田として利用されていたが、狭小な湿田であり、農作業に多大な労力を要することから、**昭和50年代以降は耕作放棄地の発生が相次いでいた。**



【取組地域の概要】

- 位置 みうらしもろいそあじろ
神奈川県三浦市諸磯小網代

もろいそあじろ
諸磯小網代地区



- 主要作物
ダイコン、キャベツ、スイカ、かぼちゃ、メロンなど
- 主な支援施策
 - ・ 基盤整備促進事業(団体営)
(農用地の造成) (H2～H20)
 - ・ 農業競争力強化基盤整備事業
(畑地帯担い手育成型) (H27～H33)

生産現場

「かながわブランド」野菜の栽培を促進

- 営農条件が改善されることで、「かながわブランド」野菜などの高収益作物の導入を生産者自らが、進んで取り組み、作付けが盛んに。



加工・流通

消費者ニーズを捉えたイタリアン野菜の生産

- 大都市近郊の立地を最大限に活かし、**外食産業との契約栽培や消費者ニーズに合った少量多品種の露地野菜**を生産。
- **イタリアン野菜を、大都市のレストランや居酒屋へ直接出荷。**



担い手

若手農業者の組織「みどり会」が地域を牽引

- 専業農家の後継者が「みどり会」を結成し、地域営農の中心に。
- 都市在住の親子を対象とした農業体験イベントも毎年実施
(直近3年間延べ参加人数353人)



若手農業者の皆さん

高収益作物の栽培による農業所得の増加

- 基盤整備を通じた用水の安定確保により「かながわブランド」の野菜作付けが拡大。
- 大都市近郊の立地条件を最大限に活かし、**消費者のニーズに即したマーケットインな農業生産を実践**。安定的な販路の確保及び契約栽培による高単価での販売により、**農家の単位面積当たりの販売額が大きく増加**。

【高収益作物】

すいか	8.6ha
三浦かぼちゃ	0.9ha
青首だいこん	17.7ha
早春キャベツ	17.4ha
冬瓜	0.3ha



かながわブランド
「三浦かぼちゃ」



多品種のイタリアン野菜